

1. 案件名（国名）

国名： ネパール連邦民主共和国

案件名： スルヤビナヤックードゥリケル道路改修計画(The Project for Improvement of Suryabinayak-Dhulikhel Road)

2. 事業の背景と必要性**(1) 当該国における道路セクターの開発実績（現状）と課題**

ネパールでは、一人当たりの道路距離や道路密度は南アジア地域で最低レベルにあるが、物流は大部分を道路交通に依存しているため、道路網の整備は重要な課題である。道路網の問題点として、カトマンズと南部タライ地域及びインド国境を結ぶ事実上唯一の幹線道路が、例年雨期の土砂災害によりたびたび寸断され、東部タライ地域からカトマンズまで西部地域を迂回せざるを得ず、輸送に時間がかかることが挙げられる。高い輸送コストや不安定な物流を改善するため、安定的かつ信頼性のある陸上ルートの確保が急務となっている。

(2) 当該国における道路セクターの開発政策と本事業の位置づけ及び必要性

ネパール政府は、安定的かつ信頼性のある運輸交通網の整備を目指しており、戦略道路網整備計画及び道路プログラムと優先投資計画において、本事業の対象区間であるスルヤビナヤック - ドゥリケル間を含むミッドヒル・ハイウェイの建設の促進を掲げている。本事業はこれに合致するものであり、本計画の早期実施の必要性は高い。

(3) 道路セクターに対する我が国の援助方針

我が国の対ネパール国別援助方針（2012年4月）では、重点分野「運輸交通」にかかる支援策の一つとして主要幹線道路の整備を掲げており、本事業はこれに合致する。

(4) 他の援助機関の対応

世界銀行、アジア開発銀行は、ネパール山間部を東西に貫くミッドヒル・ハイウェイ（約1,750kmを予定。スルヤビナヤック - ドゥリケル間道路やシンズリ道路はその一部をなす。）等、主要路線の新設・改修を支援している。

3. 事業概要**(1) 事業の目的**

ネパールの首都カトマンズ東部郊外にあるスルヤビナヤックからドゥリケルまでの約16kmの道路を拡幅し、首都カトマンズから東部タライ地域へのアクセスを改善することで、安定した物流網の構築及び地域経済の活性化を図る。

(2) プロジェクトサイト/対象地域名

カトマンズ盆地東部スルヤビナヤックードゥリケル間

(3) 事業概要

(ア)土木工事（本線工及び舗装工（約 16 km）、信号・街灯設置、側道や歩道橋の設計・施工）

(イ)コンサルティングサービス（基本設計、詳細設計、入札補助、施工監理）

(4) 事業実施体制

事業実施機関： 公共事業運輸省道路局

(5) 環境社会配慮・貧困削減・社会開発

(ア)環境社会配慮

① カテゴリ分類： A

② カテゴリ分類の根拠： 本計画は「国際協力機構環境社会配慮ガイドライン」（2010年4月公布）に掲げる道路セクター及び影響を及ぼしやすい特性に該当するため。

(イ)貧困削減促進等：沿線農村地域における地域経済活性化、ならびに内戦により開発の遅れた山岳地域の開発と経済活性化等による貧困削減促進効果が見込まれる。

(6) 他スキーム、他ドナー、他案件等との連携： 本計画と関連する道路として、我が国は無償資金協力「カトマンズーバクタプール間道路改修計画」（2008年7月～2011年9月）を実施済みである他、1996年より無償資金協力にてシンズリ道路の建設を支援している（現在、最終工区である第三工区（2/2期）（2012年7月～2015年3月完成予定）を建設中。）。

(7) その他特記事項： 特に無し。

4. 過去の類似案件の評価結果と本事業への教訓

(1) 類似案件の評価結果

ネパールのシンズリ道路建設計画の評価結果（2002年）等では、道路の維持管理体制が不十分な場合、改修が必要になるなど最終的に高コストに繋がるため、類似案件の実施に当たっては実施体制の確認を含む精度の高い維持管理計画を作成することが必要と指摘されている。

(2) 本事業への教訓

上記の評価結果を踏まえ、我が国は、技術協力を通じて実施機関の道路維持管理運営能力強化に取り組んでいるところである。当該案件においても、先方の維持管理体制につき十分確認する。

以上

〔別添資料〕地図

ネパール道路セクター支援 地図

